

■薩摩治郎八(パロン=サツマ) 祖父の遺産を背景に、パリ社交界で活躍、蕩尽し無一文となって帰国した。

さつまじろはち

田中正造直訴1901= 東京神田の木綿販売業薩摩商店2代治兵衛の長男に生まれる。

近江出身の祖父初代薩摩治兵衛は、西南戦争の際に木綿買占めで巨万の富を得、

日露戦争終・1905= 4歳:

この頃、日本の木綿事業が最盛期を迎えていたこともあって、長者番付の十指に入るほどになっていた。2代目の父は番頭に商売を任せきりで、趣味に逃避していて、過保護に育てられる。

韓国反日暴動1907= 6歳:

九段精華小学校に入学。

伊藤博文暗殺1909= 8歳:

祖父が死去、

韓国併合・・1910= 9歳:

明治天皇没・1912=11歳:

大正政変・・1913=12歳:

中学へ進むも学校生活になじめず、顔面神経痛になって自主退学、大磯の別荘での静養に入り、

第一次大戦始1914=13歳:

ワズワース等の英文学作品を愛読するうち、

法律経済の勉強をとオックスフォード大学留学を志すようになり、

本格政党内閣1918=17歳:

ベルサイユ条約・1919=18歳:

*渡欧。パリに到着するや、洋服を注文して身支度を整え、イギリス・ハンブシャーの老牧師邸に寄宿するも、退屈に耐切れず飛出し、藤原義江が遊びに来ていたロンドン近郊の博士邸に移るが、毎月実家から送られる大金を、高級車や劇場通い等に注ぎ込み、学問はそっこのけとなる。派手な金の使いっぷりで、コナン=ドイルはじめ多くの著名人と出会うようになり、T.E.ロレンスとの会見に成功したとささいわれる。

原敬首相暗殺1921=20歳:

芸術家の集うパリに憧れて移住し、まもなく社交界にデビューする。多くの女性と浮名を流す一方、

水平社結成・1922=21歳:

藤田嗣治らとの交流を始めるが、

関東大震災・1923=22歳:

大震災で薩摩家本邸が焼失し、

護憲三派圧勝1924=23歳:

舞台女優を巡って侯爵と決闘した後、帰国。日本の若旦那の遊びに転換するも、物足りなく、

治安維持法・1925=24歳:

初めての文化事業として自腹でフランス人ピアニストを招致、御前演奏もして評価が高まり、女子学習院での特別演奏会が開かれた際、山田英夫伯爵の娘千代と出会う。フランスの文部大臣オノラの提唱に応え、パリ国際大学都市に日本人留学生会館建設を約束するも財政難だった日本政府の要請で全額出資する。

円本時代始・1926=25歳:

結婚し、千代を連れてパリの社交界に戻るが、満ち足りず、藤田を介して日本人画家の支援を始める。

金融恐慌・・1927=26歳:

火災で焼失したベルギーの大学再建記念式典で日本大使が治郎八の名を出して日本文化講座創設を勧め、

共産党事件・1928=27歳:

同大学の創立500年祭に出席し、実家の資金提供で“薩摩講座”がスタート、現在もなお続く。

世界恐慌・・1929=28歳:

*藤田嗣治らが{仏蘭西日本美術家協会}を旗揚げし資金援助した展覧会“薩摩展”を開催して大反響となる一方、現地で“メゾン=ド=サツマ”と呼ばれる日本人留学生会館{日本館}が完成、盛大な行事を主催し、フランス政府からレジオン=ド=ヌール勲章を贈られるなど、最高の晴舞台、以後、“パロン=サツマ”と呼ばれる。

満州事変・・1931=30歳:

千代が肺を患い、スイスの療養所に入り、以後別離。内紛に嫌気して“薩摩展”も解散。

国際連盟脱退1933=32歳:

パリ国際大学都市オノラ総裁の訪日に随行して一時帰国、東南アジア諸国を周遊し、

帝人疑獄事件1934=33歳:

パリに戻ると、ドイツのナチスへの危機感が拡がっており、自らナチスが食指を動かしていたチェコスロバキアに乗込んで平和講演をすることを決意、オノラ総裁らの後押しもあって、

芥川直木賞始1935=34歳:

*実現、公演後現地駐在 日本代理公使から、プラハ国立美術館に日本美術部門設立計画を聞くと、自ら蒐集してきた美術品を寄贈、“薩摩コレクション”と呼ばれるなどしたが、薩摩商店が倒産してバックボーンを失い、以後、パリ社交界での影が薄くなって行く。

日中戦争始・1937=36歳:

健保+総動員 1938=37歳:

一旦帰国、途中バンコクで病氣となり、大磯から箱根に移した別荘で静養するが、

第二次大戦始1939=38歳:

ドイツ軍のポーランド侵攻に憤激する間、オノラ総裁から日本館の危機を知らされ、特例で再渡仏。

大政翼賛会・1940=39歳:

フランス全土がナチスドイツの占領下に入った後も、おそらく南仏で療養を続けながら生き延び、

日米開戦・・1941=40歳:

年金+総武装 1944=43歳:

占領から解放されたパリで在留邦人が次々敵国人として逮捕されると、その救出に奔走、

敗戦・・・1945=44歳:

版画家長谷川潔を逮捕3週間後に救出、

新憲法公布・1946=45歳:

三大事件・・1949=48歳:

長野の富士見高原で療養中だった千代が死去。

朝鮮戦争始・1950=49歳:

オノラ総裁が死去したことから、精神的支えも失い、

独立回復・・1951=50歳:

*無一文となって、12年ぶりに帰国。東京のマンションで独り暮らし、

55年体制始・1955=54歳:

浅草の劇場に通うなどしながら、「せ・し・ぼん わが半生の夢」を刊行。

国連加盟・・1956=55歳:

出会った踊り子と再婚、

イスタンブール・1958=57歳:

父が死去。

美智子妃・・1959=58歳:

妻が里帰りするのに従い、阿波踊り見物に出かけた際、脳出血で倒れ、

安保闘争・・1960=59歳:

以後、徳島の妻の実家で療養、リハビリで回復するも、フランス語しか出なくなる。

東京リビウカ 1964=63歳:

いざなぎ景気1966=65歳:

治郎八をモデルとした瀬戸内晴美の「ゆきてかえらぬ」が発表される一方、フランス外務省の招きで妻と渡仏し、現地で旧交を暖め、

美濃部都知事1967=66歳:

獅子文六も読売新聞に「但馬太郎治伝」を連載したことから、“パロン=サツマ”の名が再び知られたが、

石油ショック1973=72歳:

田中角栄逮捕1976=75歳: 徳島での生活17年目に没した。